

『私が開発途上国サモアで感じたこと・考えたこと』

学校名・名前・担当教科： 六甲中学校高等学校・西本 忠夫（社会）
 実践教科： 地理
 指導時数： 10時間
 対象学年： 中学1年生 対象人数： 185人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

先進国で失われゆく絆や人間的暮らしが途上国にはある。それらは、援助による経済発展と矛盾する面がありそうだ。途上国自らの責任で判断されるべきである。しかし、グローバル化の進展により伝統的価値観は否応なく危機にさらされているし、人々も熟慮なしに発展を最重視しているかに見える。今価値があることは、長期的地球的視野に立って考えられる環境を支援することだ。そのような環境を日本でも大切にしていきたい。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ①日本のODAは、他の先進国と比較して改善すべき問題が多いと思っていた。
- ②途上国の学校教育の主な課題は、インフラの未整備や教員の不足による低い学力水準であり、主な原因は資金不足だと認識していた。
- ③近年やや勢いに欠けるとは言え、ソフトパワーを含む日本の影響力や国際的地位はアジア・太平洋地域では低くないと思っていた。

AFTER

- ①相手国の最終的な自立を目指し、日本ならではの細やかな配慮や誠実さを備えたODAもあると理解するようになった。
- ②社会で求められている能力とのミスマッチや文化的背景、雇用不足も深刻であり、日本の教育のノウハウの深さについても再認識させられた。
- ③官民揃って海外進出している中国の影響力の拡大ぶりと現地評価を知ることができた。日本は規模こそ異なるものの、サモアと同じ島嶼国であり、共通する課題を抱えている。真の国際化の必要性を痛感させられた。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

①本校における中学地理の授業の取り扱い

1年生で週2時間、2年生で週2時間となっている。1年生では地理的思考や地図の見方、日本地誌を取り扱う。2年生では世界地誌を取り扱い、端折りながらも世界一周を目指す。

②現在の授業の課題

上記のカリキュラムで、世界を概観する力（系統地理的学力）と地域の特徴を考える力（地誌的学力）の形成に成果を上げている。一方で、「南北問題」や「日本と諸外国との関わり」といった現代社会における諸課題をテーマとして取り上げる機会はない。また、知識としてだけでなく地域の人々の暮らしが目に浮かぶよう十分授業で取り上げている地域はない。

③今回の授業実践の目的

そこで、南北問題のあらましを学んだ後、ケーススタディーとしてサモア地誌を取り上げる。詳しく学習するには小さな国であること、年間授業時数に制限があることから「途上国」や「援助」について、他地域と比較しながら考えさせることとした。

ふだん統計・地図など数値や図表で表される情報を理解し活用する機会を与えるよう配慮しているが、民具や具体的生活場面を切り取った写真を通じて人々の暮らしを考える経験を積ませたい。また、日本の援助についても具体的に伝えたい。これらを通じて南北問題について自ら考え、世界の他の地域の人々とのつながりを感じることができればと期待している。

④授業の位置づけ

第2部「さまざまな地域の調査」、3章「世界の国々を調べよう」の地誌学習において「南北問題」や「国際援助」「日本と諸外国の関わり」を発展的テーマとして学習する。

(2) 授業の構成

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|-------------------|--|--|
| 1・2時限目 南北問題の基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・南北問題の実態と原因について概要を理解する。 ・途上国の置かれている状況・貧困について知る。 ・途上国への援助の必要性を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳 ・地理資料集 |
| 3・4時限目 サモア地誌 | <ul style="list-style-type: none"> ・サモアの自然・略史・政治・文化・経済と産業・社会について理解する。 ・諸統計に表れる途上国と先進国の相違点を読み取り、その意味を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳 ・教材プリント「統計」（資料Ⅰ） ・地理資料集 |

| | | |
|---------------------------------|--|--|
| <p>5・6時限目 サモアの社会と暮らし</p> | <ul style="list-style-type: none"> クイズを通じて、サモアの暮らしとその背景を具体的に理解する。 「サモア島の歌」を聴き、歌詞の真偽について考えさせる。 カルチャーボックスから取り出したモノの用途と背景について話し合い、発表させる。 | <ul style="list-style-type: none"> サモアの地図 教材プリント「クイズ」(資料Ⅱ)「サモア島の歌の歌詞」 サモア島の歌音声 カルチャーボックス |
| <p>7時限目 サモアの暮らしと課題</p> | <p>写真を見て、「何をどうしているのか」、「なぜか」を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> アピア市内 学校 農村の暮らし | <ul style="list-style-type: none"> サモアの地図 教材プリント「写真」 映像(写真・DVD) |
| <p>8時限目 サモアへの日本の援助</p> | <p>写真を見て、「何をどうしているのか」、「なぜか」を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミ処分場 自然保護区 津波被災地 援助事業を行う中国の企業 | <p>サモアの地図</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材プリント「写真」 映像資料(写真) |
| <p>9時限目 サモアと日本の価値観比較</p> | <ul style="list-style-type: none"> サモアと日本の価値観比較アンケートを実施し、サモアの生徒の回答と比較してそれぞれの背景を考えさせる。 青年海外協力隊員、JICA支所長の話 私からのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> 教材プリント(アンケート用紙) 教材プリント(アンケート集計結果) |
| <p>10時限目 サモアに関するレポートの作成</p> | <ul style="list-style-type: none"> サモアについて授業で教わったことや自分で調べたことを基に自分の感想や考えをまとめる。生徒の学習を評価する材料とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 教材プリント(レポート書式) 今までの教材 |

2. 授業の詳細

1・2時限目 「南北問題の基本」

■目標

- 南北問題という解決すべき課題の存在を知る。
- 南北問題の背景には先進国があること、途上国だけでは解決が難しいことを学ぶ。

■内容

- 南北問題とは何かを知る。
- 南北格差の理由を考える。



<ココがポイント>

理由や現象をできるだけ多様な観点から考えさせるようにする。

- 途上国の抱える貧困について学ぶ。



<ココがポイント>

中国の発展ぶりはよく知られている。途上国のイメージを中国ととらえている生徒も少なくない(中国を先進国と勘違いしている生徒もいる)。国により貧困の程度がさまざまであることと、1人あたりGDP、栄養不足人口の割合、識字率など説得力のあるデータを用いる。

④プランテーション農業を知る。



<ココがポイント>

開発が伝統的生活の維持や地域全体の均衡ある発展と結びつきにくい例として、また植民地支配に代わる先進国による経済的支配となりがちな例として取り上げる。

◎生徒の感想

「途上国であるサモアの現状を知り、先進国である日本に住む僕たちがどれだけ恵まれているのかよく分かった。」「人口が70億人になったニュースを見て何も思わなかったが、授業で習って、先進国がエネルギーを節約しないと、と思った」

◎所感

食糧増産・経済発展のペースを上回る人口増加について生徒が感想を記していた。10月31日に国連人口基金が世界人口70億人突破を発表したことで、社会的関心も高まった。途上国の人口増加は南北問題の解決を難しくするが、一人ひとりの生命の誕生を祝う気持ちを忘れずにいたい。

3・4時限目 「サモア地誌」

■目標

- ① 統計から地理的特徴を読み取り考える技能を磨く。
- ② 統計から、先進国と途上国の違いを読み取る。
- ③ 地図上の位置、諸統計から分かるサモアについて理解する。

■内容

- ① 教材プリント「統計」(資料I)を利用して、サモアの地図上の位置・地形・気候・略史・政治・文化・経済・産業・社会の特徴について地理的特徴を読み取り、背景について考察する。
- ② 読み取った内容を総合し、サモアの特徴をつかむ。その際、風土・文化をイメージする。



<ココがポイント>

他の途上国とサモアの相違点の存在を生徒に気づかせ、疑問を抱かせるようにする。のちに、途上国それぞれにふさわしい援助を考える上での伏線となる。

◎生徒の感想

「サモアは餓死する人もいないし輸入の問題以外ならけっこう安定しているので、ニュースでやっていた『人が幸せかどうかを計るブータンが1位だったやつ』が高いんじゃないかと思いました」「開発途上国は識字率が低いと思っていたが、サモアが高かったことに驚いた(日本とほぼ同じ)。世界は広くいろいろな目線で見ないと分からないことが多いと思った。」

◎所感

数値情報しかない統計からでも、生徒なりに実感を持って多面的な理解ができた。1つの国を詳しく取り扱うことで生徒の関心が強まっている。

5・6時限目 「サモアの社会と暮らし」

■目標

- ① サモアの人々の暮らしについて、身近な日本と比較して具体的に理解する。
- ② サモアの文化や風土、生活について知識だけでなく五感でイメージするよう努める。
- ③ サモアで生きることの魅力と苦勞を発見する。

■内容

- ① 教材プリント「クイズ」（資料Ⅱ）を利用して、サモアの暮らしや社会制度を学ぶ。
- ② 「カルチャーボックス」から取り出したモノの用途と背景について話し合い、発表させる。
- ③ サモア島の歌を聴き、歌のイメージと実際の違いを予想する。



＜ココがポイント＞

できるだけ生徒にとって身近なもの、また「生徒の日常」「日本社会」の常識、「途上国」のイメージを覆すようなものを選ぶ。ここまで客観的知識を軸に組み立ててきたが、ここでは海外研修を通じて得た体験談を生き生きと語ることに力を注ぎ、生徒の気持ちを高めたい。

◎生徒の感想

- ・「僕もサモアに行ってみたいと思いました。サモアにはどのような野生の果実が生えているのでしょうか。教えてください。」
- ・「サモアに行って、嬉しかったこと、感動したことは何ですか。」

◎所感

「カルチャーボックス」より「クイズ」がより生徒の関心を惹いた。生活体験に乏しいため、見たことのないモノで抽象的な特徴を学ぶよりも、身近にあるものの有無によって「途上国」「島国」「熱帯地域」の肉付けをする方が取り組み易かったのだろう。クイズでは抽象的なものでも取り扱えるが、モノは、学校生活や子供に密着したものを選ぶのが望ましいと考えられる。

7時限目 「サモアの暮らしと課題」

■目標

- ① 写真から地域の特徴や人々の暮らしのありさまを読み取る技能を身につける。
- ② 映像や音声を通じてサモアの暮らし・人々の喜怒哀楽に思いをはせる。

■内容

教材プリント「写真」（資料として以下に適宜掲載）を見て、何をどうしているのかなぜなのかを考えさせる。スクリーンにヒントや解説となる新たな写真を投影しながら授業を進める。

- ① アピヤ市内などサモアの街中の様子から生活ぶりを知る。
⇒マクドナルドの位置づけ・スーパーマーケットに並ぶ商品・乗合バスの混雑と譲り合い



マクドナルドの価格表



スーパーマーケット店内



乗合バス乗車風景

- ② 学校のあり方と子供や教育をめぐる諸課題について知る。
⇒制服・朝礼・国旗・詰め込み教育・体罰と子供の地位・教材・学習・進路・子供の笑顔



小学校の校庭



小学校の授業風景



小学校の職員室前（成績掲示）

- ③ 農村の伝統的自給自足の暮らしを知る。
 ⇒食事・住居（ファレ）・家畜や自然との共生・家父長・家族の関わり・楽しみ・歌声



農村のファレ



裕福な家庭の夕食



ご馳走にありつく犬



日曜日の過ごし方



<ココがポイント>

体験に基づいて説明する。サモアの人々の雰囲気や、海外研修で体験した自分の驚きや喜び、困ったことなどを語り、生徒に疑似体験の機会を提供する（8時限目も同様）。
 カルチャーボックスで取り上げたモノの使用場面を用意し、なるほどと思わせる。

◎生徒の感想

「このままでいくと、サモアという国はなるのですか。」

8時限目 「サモアへの日本の援助」

■目標

- ① 国際機関や ODA、NGO による途上国支援の概略と課題について知る。
- ② MIRAB 経済について理解する。
- ③ 望ましい途上国援助のあり方について考える。

■内容

教材プリント「写真」（掲載省略）を見て、何をどうしているのかなぜなのかを考えさせる。

- ① タファイガタ埋立地 ⇒サモアにおけるゴミ処理の重要性。日本の技術・工夫。持続可能性。
- ② バイリマ自然保護区 ⇒すぐ結果のでる援助と将来のサモア人に感謝してもらえらる援助。
- ③ アピア中心部の上海建工の旗標
⇒中国政府の有償資金協力で政府施設建設。必要性・存在感・影響力拡大・住民の評判。
- ④ 津波被害を受けたアレイパタ村
⇒被害と復旧。再発防止に必要な高額資金を地元は要望。
- ⑤ オセアニアの島嶼国家に見られる MIRAB 経済の課題特徴を知り、その課題について考える。

9時限目 「サモアと日本の価値観の比較」

■目標

- ① サモアと日本の価値観にはそれぞれ理由があり、社会形成の根幹となっていることに気づく。
- ② 価値観の多くは人類に普遍的で、社会のあり方は互いに学べるものであることに気づく。

■内容

- ① 価値観に関する「アンケート」を生徒に実施し、話し合いによって、回答を集約する。
- ② 同じアンケートに関するサモアの生徒の回答集計結果と比較して背景を考察する。
- ③ 青年海外協力隊員の現地での活動ぶりや想いを伝える。
- ④ JICA サモア支所長からのメッセージを伝える。
- ⑤ 私からのメッセージを伝える。



<ココがポイント>

慣れ親しんだ環境や物質的豊かさにとらわれることなく、サモア・日本両方の魅力と課題を感じさせたい。時間軸をずらしサモアの未来、日本の過去を比較すると共通点に気づき易い。持続可能性の観点も踏まえ、人間にとって何が大切かを真剣に考えることが実践授業の成果に繋がる。

10時限目 「サモアに関するレポートの作成」

■目標

- ① 自分の理解したサモアを総合的にまとめる。
- ② 途上国・日本社会の進むべき道・援助のあり方について自分なりの考えを持つ。
- ③ 自分の今後の生き方に関わる手掛かりをつかむ。

■内容

- ① サモア島の歌を再度聴き、日本から見たサモアに思いを馳せ、事実と区別して整理する。
- ② サモアについて授業で教わったことや自分で調べたことを発表形式にまとめる。
- ③ それらを基に自分の感想や考えをまとめる。

◎生徒の感想

「サモアについて勉強させて頂きましたが印象に残っています。詳しくは知らず、貧困でどうにもならない国だろうというのは単なる「思い込み」でした。確かに貧しい面もありますが、アフリカのところと比べるとまだ裕福かとも思いました。女性の社会的立場や、サモアにあるもの、識字率などいろいろなことを聴くとよい面も見えてきたりしました。ただ単に知名度や場所ではなく、統計や歴史的事実など複数の面を考えてその国を見つめることで本当のその国の美点、問題点が見えてくると考えさせられたよい機会となりました。」

3. 成果と課題

事前学習でのアドバイスやワークショップの体験などから、モノなどの資料を豊富に見せようと心掛けた。生徒は興味を抱き反応もよかった反面、感想を見ると講義による詳しい解説への期待や満足度が高い。知的情報伝達の重要性に気づかされた。目新しいアイデアやグッズもよいが、日常の授業を通じて発揮される教員の問題意識や知識習得のあり方が問われていると再認識した。また開発教育的発想でストーリーを組まずとも自ずと国際関係や社会構造、課題の重層性の理解を進めていった。適切な素材を与え、後は自分で考えさせる大切さを感じた。

体験に基づく話は、生徒の強い興味や集中力を生んだ。個人的立場や価値観を明らかにした上で(できれば広い視野や複数の視点から)、根拠に基づいて述べれば、主観的感想にも価値がある。生徒は耳にした話の中である程度真実に近いものを見分ける力があると頼もしく感じた。

私たちの行う授業にしる開発教育に関する講演やワークショップにしる、ある意図のもとに設計されている。それが人類の普遍的価値や正義にかなっているかは別として、主観的価値観が投影されており、押し付けの側面を持つ。生徒自身が後に自分で下す判断の方が正しいのではないかと自戒したい。主観的であることを明らかにして、体験談として語ることは、教師自身と生徒がそのことに自覚的であるための一つの試みになり得るのではないだろうか。

国際的取り組みを含めた問題解決について生徒の関心は強く、授業への主体的取り組みが今後とも期待される。ただ大学受験まで見据えた教科学習や課外活動に忙しく、自主的な調べ学習を継続する意志の強い生徒が多くない点が課題である。訪問した JICA サモア支所の相葉支所長から「『私にできることは何かを考えて貯金を始めました』ではなく『なぜ貧乏なのか』『なぜ水が不安定なのか』を学ぶ眼を養ってほしい。援助の仕方に正解はない。『何とかしてあげなければ』と短絡的に考えず、コミュニケーション能力と現場での対応力、考えるプロセスを大事にしてほしい」とのメッセージを頂いた。この言葉を生徒・教師とも大切にしていきたい。

参考資料

・参考文献

- 「データブック オブ・ザ・ワールド」二宮書店
 「社会科 中学生の地理 世界の中の日本」「図説地理資料 世界の諸地域 NOW」帝国書院
 「日本とのつながりで見えるアジア 7オセアニア」岩崎書店 石出法太
 「オセアニアを知る事典」平凡社
 「きみにもできる国際交流13 フィジー・トンガ・サモア」偕成社 こどもクラブ
 「池上彰のニュースに登場する国ぐにのかけとひかり 4 南北アメリカ・南太平洋」
 池上彰 さ・え・ら書房

資料Ⅰ

統計プリントの内容 ※日本と比較

1. 自然 (1) 地勢 ①位置 ②地形 (2) 気候
2. 略史
3. 基本統計 ①人口 ②面積 ③人口密度 ④都市人口率 ⑤GNI (1人あたりも)
 ⑥人口増加率等 ⑦年齢別人口構成 ⑧産業別人口構成 ⑨土地利用
4. 政治
5. 文化 ①言語 ②民族 ③宗教
6. 経済産業 ①経済 ②農林水産業 ③世界貿易 ④対日貿易 ⑤貿易依存度 ⑥観光収入
7. 生活 ①通貨 ②自家用車 ③携帯電話契約者数 ④インターネット利用者数 ⑤識字率
 ⑥消費エネルギー・穀物・砂糖・紙類 (いずれも1人当たり)

資料Ⅱ

「サモアあるなしクイズ」

- 英語教育
 スーパーマーケット
 映画館 自家用車 刺青
 ホームレス 日本レストラン 鉄道 警察
 冬休み スラム ヒンズー教寺院 タクシー 離婚
 日本からの直航便 ラグビー バス 中華料理店 新聞
 相撲 パンの実 豆腐 ニート ココヤシ 大学
 殺人 コンビニエンスストア キリスト教会 刺身 日本大使館
 ゴミ処理場 JICA (独立行政法人国際協力機構) 児童虐待 電気
 日本人ボランティア ケンタッキーフライドチキン 街灯
 わさび 美しい海岸風景 マクドナルド ガス
 教科書配布 サモア語の授業 携帯電話
 児童労働 エアコン テレビ
 パソコン 刑務所 水道
 市役所

価値観に関するアンケートの作成・実施・集計は、教師海外研修旅行に同行された瀧口麻帆先生に全面的にお世話になった。この場を借りて感謝の意を表したい。